[事案 2024-57] 転換契約取消請求

・令和6年12月25日 裁定終了

<事案の概要>

募集人の脅迫および不退去を理由に、転換の取消しを求めて申立てのあったもの。

<申立人の主張>

平成23年9月に契約した終身保険を、令和元年6月に組立型保険（契約①）に転換し、さらに、契約①を令和3年8月に組立型保険（契約②）に転換したが、以下の理由により、契約①②を取り消してほしい。

- (1) 契約①の契約時、募集人から連絡があり保険会社の営業所を訪れたが、そこで募集人らから、まくしたてるように契約①についての説明を受けた。自分の妻が、死亡保障のかなり減額と医療保険の保険料が高いことに気付き、意見をしたが聞き入れてもらえず、圧力と言葉の暴力に近い感じでねじ伏せられ、持ち帰って検討したいと言っても聞き入れてもらえず、契約しないと帰れない空気だったため、早く帰りたいと思う気持ちで契約の申込みをした。
- (2) 契約②の契約時、募集人から突然連絡があり、自宅にて話を聞くことになったが、契約②の説明を一方的にされ、妻が疑問を抱き質問をしても、大丈夫と言われ、契約しないと帰らないと言われてしまい仕方なく契約申込をした。後日、他社の保険外交員数人に相談したところ、契約②に関しては、終身の保障をなくすことで、保険料があまり変わらず、募集人の成績のために勧められたのではないかとされたが、終身の保障がなくなることは知らなかった。

<保険会社の主張>

以下等の理由により、申立人の請求に応じることはできない。

- (1) 契約①の契約時、募集人らが申立人らに対し、言葉の暴力に近い感じの圧力をかけた事実はなく、申込みをしないと帰宅させない雰囲気であったという事実もない。保険会社のオフィスという募集人以外の第三者がいる場所でそのようなことを行うことは通常考えられない。
- (2) 契約②の契約時、募集人は、パンフレットおよび設計書等を用いて複数回にわたり十分な時間をかけて説明を行っており、契約②の説明を一方的にしたなどということはない。また、募集人が、契約しないと帰らないと言ったという事実もない。

<裁定の概要>

1. 裁定手続

裁定審査会は、当事者から提出された書面にもとづく審理の他、契約時の状況等を把握するため、申立人および募集人に対して事情聴取を行った。

2. 裁定結果

上記手続の結果、申立人の請求は認められず、その他保険会社に指摘すべき特段の個別事情も見出せないことから、和解による解決の見込みがないと判断して、手続を終了した。